（様式５）

令和７年度　日本大学自主創造プロジェクト

日大生のやってみたいを実現するプロジェクト成果報告書

２０２５０２３

プロジェクト名　にちはく！2025

プロジェクトの概要

本企画は、日本大学における多様な学びの面白さ、魅力を伝える博覧会の開催を目指したものである。誰でも気軽に立ち寄ることができる郡山駅１F「ひろうえん」に、体験型ブース、パネル・作品・映像展示、相談会を設置し、半日の短い間ではあるが、「博覧会」を開催する構成とした。エキスポイヤーである 2025 年という節目を踏まえ、双方向的な体験という強みを生かして、広く子供から大人まで、幅広い方に日本大学の魅力をとどけることを目指した。

プロジェクトの結果・成果

最終的な実施には至らなかったものの、実施に必要な要件を整理・具体化し開催に向け準備を進める中で様々な学びを得た。
開催約３週間前に運営上の懸念が生じ、実施には至らなかったが、
当時点で以下まで準備を進めた。

・運営計画の策定：会場レイアウト、当日のタイムテーブル、搬入・搬出経路の整理、シャトルバスおよび楽屋の手配調整
・コンテンツ準備：ステージに出演者の確保（一枠のみ調整中）とリハーサル計画、文化系学生団体の確保と搬出入・レイアウトの検討、特別講義の撮影、学部紹介動画の上映準備（許諾交渉を含む）、研究室成果物展示の打合せ、計画書の作成・推敲、必要機材の手配調整
・その他：保険の加入検討、関係者との要件整理、会場見取り図および使用要件に基づく安全性の確認
当日の内容としては、午前の部はステージ公演とし、午後の部は動画の上映、研究室・学生団体による展示等を設計した。

一方で、開催約 3 週間前の時点でプログラムおよび会場レイアウト等の再構築が必要となり、短期間での再設計や関係団体・協力者への影響について総合的に判断した結果、学内プロジェクトとして対外実施するにあたり、品質、安全性を確保した実施が困難であると判断し、中止を決断した。
反省点として、実施要件の洗い出しは進められた一方、全体の合意形成にかかる期間の見誤りと、要件整理における主導体制の明確化が不十分だった点があげられる。
合意形成の見通しを改善するため、具体的な計画案をより早くから示し、関係者との調整においてそれぞれの意見を踏まえつつも、実現可能性などの観点からある一定の落としどころを提示できるように改善したい。
本準備を通じ、企画運営における要件整理、現場を体感すること、企画を具体的な運営計画にすること、主導体制の明確化の重要性を実践的に学んだ。

活動写真





